

国土交通省 近畿地方整備局淀川河川事務所

記者発表

発表
日時

平成24年7月13日(金)
14時00分

件名

イタセンパラの再導入（放流）後の仔稚魚の確認報告
～「イタセンパラ」野生復帰のためのプランを策定～

概要

【報告のポイント】

- 昨秋に500個体再導入（放流）したイタセンパラが産卵し、今春その仔稚魚の誕生が216個体確認されました。
- 確認された仔稚魚の個体数は野生に定着するには充分とは言えませんが、順調に成育しており、秋には成熟・産卵し、生活史を全うする可能性があります。
- 再導入の取り組みなどによって得られた知見を生かし、淀川本川河道にイタセンパラを再び広く定着させることを目的に今後の生息環境の整備を具体的に示した「短中期のプラン」を策定しました。

記者説明会

開催場所：大阪マーチャンダイズマートビル(OMMビル)2階 2号会議室
(住所 大阪市中央区大手前1-7-31)

開催日時：平成24年7月13日(金)14:00より

※密漁防止の観点からお答えできない事柄(生息場所や調査方法など)がありますのでご理解とご協力をお願いします。

取扱

テレビ・ラジオ： —
新聞： —

配布場所

近畿建設記者クラブ

大手前記者クラブ 大阪府政記者クラブ

神戸海運記者クラブ、神戸民法記者クラブ、みなと記者クラブ所属で資料がない方は、「近畿地方整備局記者クラブ西村(06-6942-1141 内線2364)」に問い合わせ願います。

問い合わせ先

淀川イタセンパラ検討会 座長

大阪府立富田林高等学校 教諭 おがわ りきや 小川 力也

電話 090-3619-9235

国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所

工事品質管理官 さくま まさみ 佐久間 維美

電話 072-843-2861

大阪府立環境農林水産総合研究所 水生生物センター

主幹研究員 うえはら かずひこ 上原 一彦

電話 072-833-2770

昨年秋再導入（放流）後の成育状況の報告 「イタセンパラ」野生復帰のためのプラン策定

●昨年秋に再導入したイタセンパラが産卵し、今春その仔稚魚の誕生が確認されました。

淀川本川への2度目のイタセンパラの再導入は、その産卵期である昨年（2011（平成23年））の秋に成魚500個体を放流しました。今年（2012（平成24年））5月に二枚貝から浮出するイタセンパラの仔稚魚の出現状況について調査した結果、再導入場所付近でおよそ216個体の生息が確認されました（写真1）。淀川での確認は2年ぶりとなります（図1）。

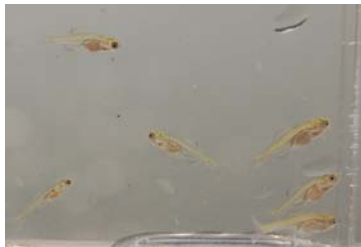


写真1 淀川で確認されたイタセンパラの仔稚魚（2012（平成24）年5月14日（左）、5月31日（右））

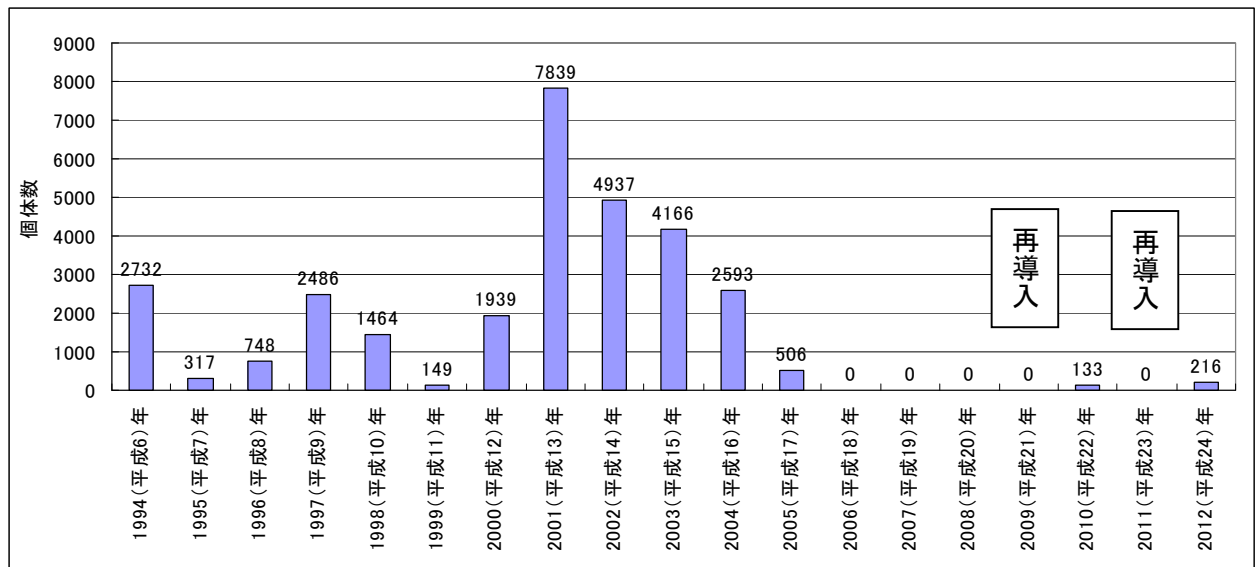


図1 淀川下流部におけるイタセンパラ仔稚魚の確認個体数の経年変化

●前回(2009(平成21)年)の再導入では、再導入直後および仔稚魚の浮出直後に大きな増水が発生し、イタセンパラの産卵母貝の流出・埋没や遊泳力に乏しい仔稚魚の流出の可能性があります。そのため、今回の再導入前に環境改善すべく、大きな増水が発生してもイタセンパラなどが流出する可能性を小さくするように整備を行いました。その結果、再導入場所は、産卵期から6月中旬まで冠水の大きな影響を受けることはありませんでした。

●確認されたイタセンパラの仔稚魚は、個体数が少ないながらも、順調に成育しており、秋には成熟・産卵し、生活史を全うする可能性があります。

イタセンパラの仔稚魚は、浮出を確認した当初の5月11日では全長1cm未満でしたが、稚魚が潜行していく時期の5月末には全長2cm前後にまで成長していることが確認できました(図2、写真2)。ここまで成長すれば、遊泳力も十分に備わり、増水があっても元のワンドにとどまる可能性があります。したがって、秋の産卵期まで順調に成長すれば、次世代の誕生が期待されます。それは野生で誕生した個体が生活史を全うすることであり、淀川のイタセンパラ復活に向けて大きく前進することとなります。

しかしながら、放流した個体数(500個体)に対して仔稚魚の個体数が半数程度であったことから、今後も野生復帰にむけた課題を検討していく必要があると考えています。

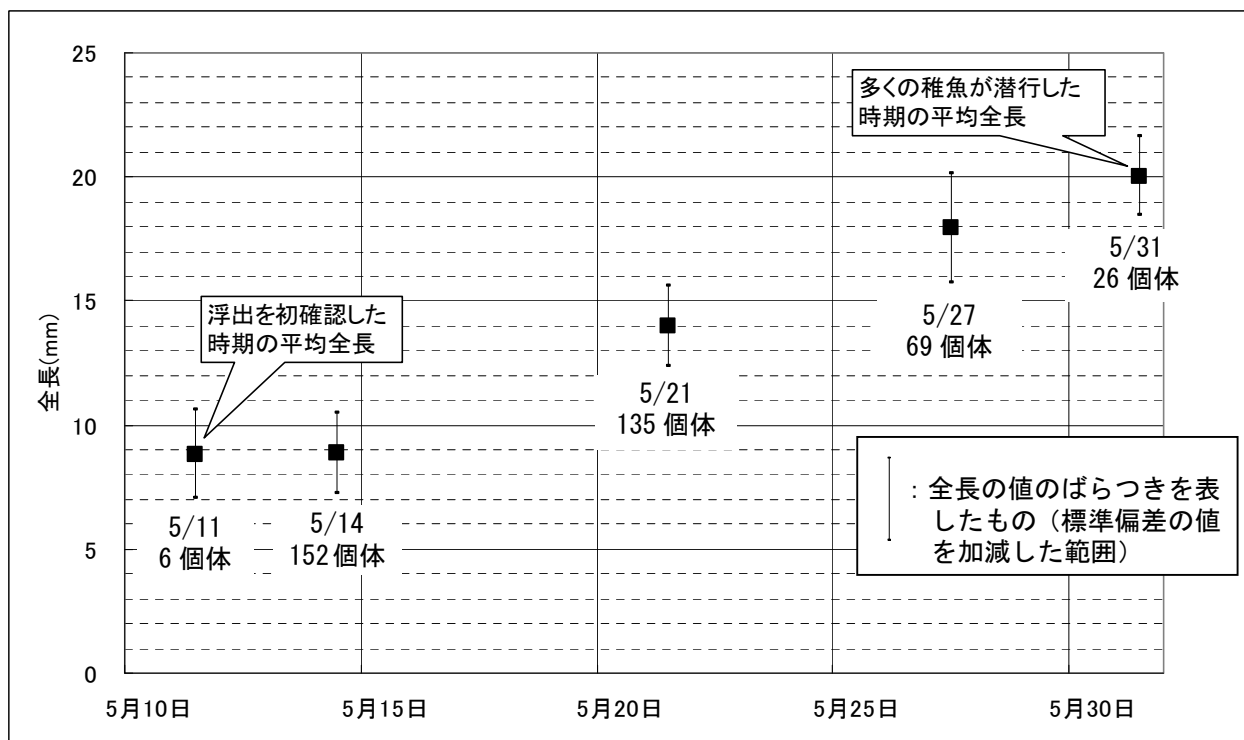


図2 イタセンパラ仔稚魚の平均全長の推移



写真 2 イタセンパラ仔稚魚の大きさの推移

●再導入の取り組みなどによって得られた知見を生かし、淀川本川河道にイタセンパラを再び広く定着させることを目的に、生息環境の整備を具体的に示した「短中期のプラン」を策定しました。

2009（平成21）年3月に発足した「淀川イタセンパラ検討会」※1は、淀川水系のイタセンパラが安定的に生息できる環境再生の具体的な施策について検討してきました。その検討のなかで、2006（平成18）年以降生息が確認できない淀川水系のイタセンパラは自力で回復する可能性が極めて低いこと、その一方で淀川本川の一部で本種が生息できる環境が整備されつつあることや、また淀川産イタセンパラの保存集団の増殖が順調であることなどから、まずは本種の再導入が必要との判断に至りました。本プランの内容は、イタセンパラの野生絶滅の可能性が高まった経緯や現況、これまでの保護活動を通して得られたさまざまな知見、そして現在の諸情勢などを勘案して、できるだけ具体的に、また短中期に実現可能な対策を中心に記しています。また、長期的な展望についても、短中期的なプランの検討に並行して行い、その内容についても記しています。

※1 淀川イタセンパラ検討会 メンバー

（委員）

座長 小川 力也 大阪府立富田林高等学校 教諭

委員 綾 史郎 大阪工業大学工学部 教授

委員 上原 一彦 大阪府立環境農林水産総合研究所 水生生物センター 主幹研究員

委員 河合 典彦 大阪市立城陽中学校 教諭

委員 竹林 洋史 京都大学防災研究所 准教授

委員 竹門 康弘 京都大学防災研究所 准教授

委員 森川 一郎 淀川河川事務所 所長

（オブザーバー）

環境省近畿地方環境事務所

京都府文化環境部

大阪府教育委員会、大阪府環境農林水産部

大阪市教育委員会

〈事務局 国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所〉